

かまクロ

鎌ケ谷クロスフィールド

発行：鎌ケ谷市民活動推進センター 発行月：平成29年7月 No37

かまクロとは？！

鎌ケ谷市は4つの鉄道路線が乗り入れ、交差する「人と文化の交流拠点」として日々発展を続けるまちであり、自治会、市民公益活動団体、企業、行政など鎌ケ谷にある様々な組織が、その垣根を越えて“縁”を「クロス」- 交差 - するという思いを込めています。



講座での心構え

- 仲間への傾聴・受容・承認
- 「学ぶ」だけで終わらない
気づく→練習する→実践する
- 「真似する」と「手を組む」を
遠慮しない
- 「楽しむ」を忘れない

ー 地域づくりコーディネーター養成講座 ー

自分ひとりの力で変えられるものは多くはないかもしれませんが、しかし、立場の異なる様々な人たちや団体と力を合わせれば可能性は大きく広がります。そのような地域の力を繋ぐ人材「地域づくりコーディネーター」を養成するための講座を今年度も開催します。

全10回の講座と、受講者同士が話し合い、新たな企画を立案・計画する実践編を実施します。各講座の個別参加も可能です。詳しくは、市民活動推進センターや市のホームページをご覧ください。

Contents

- ◆ 「かまクロ」とは?! / 地域づくりコーディネーター養成講座（写真紹介）・・・・・・・・・・ P1
- ◆ 鎌ケ谷市市民活動支援補助金事業実施報告・・・・・・・・・・ P2・P3
- ◆ コラム「人を知ること」/ センターからのお知らせ・・・・・・・・・・ P4

鎌ケ谷市市民活動支援補助金 事業実施報告

「鎌ケ谷市市民活動支援補助金」は、市民公益活動団体が、地域の抱える課題の解決のために実施する市民公益活動事業に対し補助金を交付するものです。

平成28年度は、3つの団体の事業に補助金を交付しました。

一般社団法人鎌ケ谷青年会議所 創立40周年記念事業 ～夢にきらめけ！明日に輝け！ でっかい花火を打ち上げよう～

一般社団法人 鎌ケ谷青年会議所



事業概要

市への愛着の醸成及び、鎌ケ谷市の魅力発信のため、市内の各小学校の協力を得て作成したオリジナル花火を、ファイターズ鎌ケ谷スタジアムで打ち上げる。

実施結果

実施団体からは、平成28年8月11日（木）に開催し、約5千人が訪れた。この事業をとおり「日本ハムファイターズ」という「地域の魅力」と、子どもたちという「地域の宝」を花火でつなげることができ、鎌ケ谷市や近隣市に住む子育て世代や、子どもたちが、鎌ケ谷市への愛着を育むきっかけづくりとなったと思う、との報告を受けています。

笑顔いっぱい シルバー元気ゼミ

笑顔いっぱい シルバー元気会



事業概要

高齢者の健康づくりや居場所づくりを行うため、週1回の健康体操を実施するとともに、指導者の育成も行う。

実施結果

実施団体からは、「インボディ」という計測器により可視化した健康データによると、参加者全員の体力向上が見られ、最終日に行ったアンケートでも、病院の通院回数や薬の量が減少したなどの効果が得られた、との報告を受けています。

また、指導者の育成を目的に、有志による自主的な体操の場を提供した結果、会の運営等を積極的に補助する参加者も現れ、客観的な参加から主体的な参加へと意識が変わってきていることを感じている、との報告もを受けています。

MC I（軽度認知障害） の人々を早期発見・早期診断 できる仕組みづくり

スマートエイジング



事業概要

MC I（軽度認知障害）の早期発見・早期診断が可能となる仕組みをつくるため、講演会や啓発チラシ、専門医師とのマッチング等を行う。

実施結果

実施団体からは、「MC Iの早期発見・早期治療の勧め」の講演会を平成28年12月3日（土）に実施し、約230人が来場した。啓発チラシは約7千枚作成し、市内各地域へのポスティングをはじめ、各公共施設、各団体のイベントでの配布、自治会回覧等を行った、との報告を受けています。

また、専門医師とのマッチングについては、市内や近隣市の病院を中心に、我々が同伴し年間約20人を受診させたほか、多くの方たちに受診を促した、との報告を受けています。

平成28年度の市民活動支援補助金交付事業について

鎌ケ谷市プロジェクトマネージャー 影山 貴大

平成28年度に実施された3つの事業は市民が主体性をもって、街の魅力発信や、介護予防、認知症予防などに取り組んだ、今後の発展性が非常に期待できる内容でした。

自分の住む街の問題や課題を、ほんのちょっとしたことからでも自分たちで解決していこうという動きは、これからの社会においてとても重要な価値があると感じています。

また、その過程においては、問題や課題の解決だけでなく、多くの市民がお互いに関わり合いながらコミュニティを形成していきます。そういった“自分の感じるちょっとした課題”からでも”地域のコミュニティ”は形作られていくのだと、力強く教えてもらえる事業でした。

市民活動支援補助金交付事業はそのような活動を行っている団体を支援する事業です。

是非この事業をうまく活用していただき、鎌ケ谷をより素敵な街にしていきたいと思います。

平成29年度の市民活動支援補助金交付事業

○事業名：食育を通して生きる力を育むこども食堂事業

団体名：鎌ケ谷こどもだんらん食堂

概要：孤食の解消により子どもたちにとって安心できる居場所の形成を進めるとともに、それを基盤とした非認知能力（意欲・やり抜く力・社会性など）の育成を行う。

○事業名：鎌ケ谷市市民活動団体・ボランティア団体の活動PR小冊子作成事業

団体名：鎌ケ谷マネジメントラボ

概要：市内で活動している市民活動団体、自治会などの様々な主体の情報を掲載した資料を作成し、市民へ情報提供するとともに、取材等を通じて団体間の生きたネットワークづくりを行う。

人を知ること

鎌ヶ谷市プロジェクトマネージャー 影山 貴大

「立派な仕事をしているのに、あんな人だったとは……………」このような思いを抱いたことはありませんか？

でもどうなのでしょう、私たちは本当に“その人”を知っていたのでしょうか？その人の“肩書”だけをみて“その人”を判断していなかったのでしょうか？

もちろんそういった“肩書”のある立場に立った時点で負うべき責任というものがあることは明白でしょう。しかしながら、“〇〇〇〇〇なのに”とは全て私たちや社会が貼ったレッテルであり、“その人”本人の思考や行動とは全く異なるものではないのでしょうか？

人が人を知ることとは一朝一夕にはできません。それゆえ、昔から皆が一定の認識を持てるよう“肩書”などの“印”を作り、使ってきたのでしょう。しかし、価値観や社会課題が多様化し、個が重視される時代において、人を知るためには、ひとくくりの“印”だけでなく“その人”の持つ人間性や感性をしっかりと見つめていく必要があるのではないのでしょうか？

そのためには、まず、その人を知ろうとするアクションを起こさなければならないでしょう。「あの人は頭が固いから」、「あの人は面倒だから」そう感じてしまう気持ちもよくわかります。ですがそこから、「なぜそういう考えをするのだろう」、「どうしてああいう行動をとるのだろう」という思いを巡らせ、冷静になることで見えてくるものが必ずあるはずです。

私たちは、社会という中で様々な人間や組織と関係をつくって生きています。より良い人間関係をつくるためには、“その人”の“肩書”などの“印”にとらわれず、“その人”の個性を尊重し、生身の人間として理解するところから始めることが大切なのではないのでしょうか。

当センターからのお知らせ ～かまがや市民活動フェスタ2018（仮）を開催します～

平成29年1月28日（土）に、沢山の来場者を迎えにぎやかに行われた「市民活動フェスタ」。今年度は、**平成30年1月28日（日）**に開催する予定です。

今年度も実行委員を中心に楽しい企画を考えておりますので、ご期待ください。

詳細が決まりましたら、広報かまがや、市のホームページ、チラシ等でお知らせいたします。

